近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

（1）　このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。

（2）　このデジタルアーカイブの利用に際しては「東京大学経済学図書館電子資料利用規則」に同意したものとみなされます。

（3）　印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。

（4）　画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。

（5）　画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。

（6）　文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。

（7）　本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

（8）　本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

80
347
2

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

性理學自然之實行集

東京帝國大學圖書之印

41214

經濟學部研究室
80
347

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

入野村石毛佐兵衛虎吉享和二壬戌生れ之
天保六未年月入学生を以別段祝儀為用之為め
小同人せがれ吉次郎と申候者のなを学
ひ一日も怠る事無之級初めも人に劣候やう
る事無之法人に対切と忠義のかがみきた
人の志る所先生の後を継又友兵衛
幸吉兄弟共に孝行者にて精に其事
いとも助け志あり又身に奏りかざり御褒
て已小勤め人小及ぶ所に学ひより至也

老人方永元申年より村々助けの役人撰取
ゟ〻立て書付を以て願ひ出なさゝる免
国五ヶ年より一件家ハ潰るハ師匠助けのゆふ
御上ゟ出張役人も出り出程実ゟ出張しゆ
ゆへ出張役人も出張役人も時々しゆ
ス又ゟ意元丑年ゟ出よりハ人ゟ押延ハ有之
ゞ〻来るゆゑ出られハ道友ゟ人ゟ遠と思
れ発商ゟ人ゟ引受或ハ常滑いのまり
或ハ出ぶつそふに引合夜ハ押延の取扱ひ三年より

又ヶ年ハ万百俵ハ及とハ
云〻動めゟ〻ゟ有明治二巳年十一月十二日
俵ゟ中風病ゟ〻国十九日私宅ゟ引元りゟ
出ゟ年ゟ三十六ヶ月ゟ病ゟ出ゟ年
二月七日の家ゟ　山り家ハ入りハ一月の
ゟ〻も方ゟ十ヶ所ゟ出ゟ
又国十月十日夜の中ハ月ハ出れ魂ハの霊ハ
と考我ハ山の記有ゟ出ハ人ハ能見ハてよ
かろゟ又ゟ家ハ方ゟ一日ゟ

内ゝ表ハいきハ[illegible]れともなんとよんても返事
なされハ先て死ぬうと大さわぎさせ一生
多別ふ[illegible]て多和号なんたとめさせたり依
ゝ悔者ゝ助ふ速ゝ[illegible]の次第中来り必定ゝ
一同お伺ゝて御ゝ由数年中[illegible]の明新ゝ
石宮ゝ[illegible]取之未長ゝ八石ち護神ちおゝ
[illegible]ちゝ村ゝハ不及中道友一統お伺ゝ上博
新ゝ山取福未二月廿七日石宮ゝ家上り
庁時ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ十ゝのまりゝ[illegible]ゝ

一悪ふもうめゝ生てがゝつき義ゝとハ私の本
ふて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ち村神ゝ小久保宜物ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
二月廿七日[illegible]ゝ
明治未六月初日死生年六十九歳

十日市場村林伊藤道一ハ寛政ハ甲寅年ゝ生ル
ゝて早ゝ[illegible]ゝ入学すゝ[illegible]ゝ学ゝ[illegible]ゝ
志ゝ不学のむかゝ不孝ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

もれ合有之けりして身上は宜れ候孝行ニ
付ヶ候事とも有之積ニさん若せしめ候事此有之
遠ひきしくハ商売向は怠し改革して身
をもちし日々勉強致し候事差候なりハ所の
志あとまり長和村々法則を大切ニ志し日村役人
良民となり親子は志ノ母ハ兎角何事も日村役通り
注百姓取立道守子おゐ者農業よ積ハ父母ニ孝
尽して兄弟親類始め村方之者共ハ和なさし兇
相続致所ニ渡へ候わ寸事物ニ法儀承り且

又父母ニ一和なさしめ窮民を並しハ孝子貞
女を起さしめ候事は丹精すも候七ヶ年ニ一体ハ
急し勤め所令ニ随ひ所々をさ候さ様く
道乃助をなす又は村村方一乃悪地なすとも
御上ニも勤め自ら衰者は古びき窮民並し
仏の為め困窮人とも五拾ニ康宅は手ヶ余
道ニ丹精致す候ニ大役ニ康地ハ中地と
引直しも事に康役康食は惟ハ惟ヶ所乃
教は若らさ者ニ為修行老衰病苦のいとへ無

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

〳〵御墓参り月〳〵かゝる事云〳〵又八丁雑
説〳〵町切試進め丹精の先達と成て
精す又月〳〵毎こゝ成光仏に進み来りて道
友といき海〳〵先は道試要不通〳〵家の不屋
みゑ〳〵見号ふよつ〳〵村〳〵道友たゝ我祝
ミわ〳〵思よつゆこゝ我る処明治三年七月十一日
ざんゞたてるゆ安見来とて居合せ人〳〵に
表〳〵迷云試為〳〵仏に祈めと思よて安
篠の内ゆ〳〵会と本宅を物〳〵海〳〵思

同十二日死去ス年七十七才ニ

十日市場村林宜平則亨ハ文化四卯年ノ
生まれ〳〵て三十代ゆ〳〵入学せ人に對〳〵
不実不正邪ゆ〳〵正直一偏ゆて手跡き
生業ニ手成日村伴義政草と共道試引
起ス時称うゆ〳〵ハ日人のかゝい人と成て素
ゆもむのくす悪仕ゆ動に安を為徳ゆ有ハ唯
く道ノ取立ゆ一と丹精す此宜平を人の

志ふよつて日村大略日性学といふ迄
も悪く改革と成り悪又日人と実行ふ
よつて外村の名字と成り悪村と成り
人の知る所に依て仲義かも正右郎夫婦
共に兄弟ハ宜事と思と思なしてハ
悪敵をさ塚の為として迷て云出を恐義
に御座候ふ開財と中国の日人と為
めふ日村の道を迷ハ法人の知る迄又
改人様取立丹精一件中内外に動ケ自ふの
ハどふでもよしにしてせ者之為
不慶悪二実事ふさて迷ハ為ふ
療事を重といふ日治に未九月三日
病死ス年六十四歳

備後国府農谷又右衛門政興ハ文化十四丑年に生
れ父ふ入りすす事に勤学怠り長く世ふ
父死去ふ迄て母ふ孝て一ト通りさる丹
精をこて二十三歳ふ為に世ふ出り四国巡

如ふ一て絶一ふるつゆ一なも遠ひふるつゆ
ちくふ常世の世無常道友く世語とも
能行屋ちりけかくさくくもるる世くも庵
後村し御りハ三ドの後世て八石ふ三一つの
浮世告ケつふ後りふるつゆ云一御一の情愛
愛一御の百も八石ふ来て能動ハ八石と
ハ我世と人ふ亦常ふ切てハ百姓丹精ス合
百ふて業子の無活母ふ孝ふ深一何つゆも母
此志代肖つゆ云一長後村ハ居村ハ後ふ人ふ

実ふ代ふ一世村方ふ有りても彼ゲ中初
りつゆ肖若云一及ふ様夏ふ世ス別て丹精
をふ一成功ス一件中六ケ年ふ百かくるつゆ云
く業一動ハ世七来北九ケ年ふ百精ふ人ふ
一ハ彩ふるふいと海ふ波ハ彩ふ世ふ元治元子
十二月廿一日病死ス年ハ年八歳

家廷村秋濤伝義統至ハ文化五代辰年の生也
六十一歳ふる死去ス天保十壬寅年三十二歳ふて入学

すもの故親父性学ハ試験を受さるものと思
ふ不叶親戚知人ハ皆々下るゝとゝ人々も嘆ふて動
めをるゝ事〻〻幸〻家〻志試験上ケ日数
本国釈験らも感通一ケ月ハ勿論知縁ゆ
者とも悪〻通セしめ或千町切ハ二ケ法外
おゝ三ハ不及ヤ喜寿本末ハ割るの事長
野ハ有の〻〻偽善と悪ふ所ゝ力ゝさる者
一刻も安しも外村〻道友ら深切をセ〻〻
人の知る安彼ゞん〻ふ助りゝ知る者殺

よるにいと成所す又ハ石ら丹精試験〻〻
ゆるゆゆ一ト角ヲ去るセハ居宅計百余ゆ
同人〻丹精をゝて性行苟辺幸〻園〻多南
ホと悪ゝ動め或能力さしめ悲る安明治元辰
六月九日病死ス年六十一才之

長飯男村星野喜兵衛さハ我ら学ハ初め
子供んふ教師〻教をセり生長の後一日斤時
も案情安〻長故村湯居子供ふと成て性

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

学の志を立てんとすれども小弟病ふ上
連れ居村ふ道を起さんとの試験丹精
入候へ彼が志ふ為さざる者無一然
るに其子ふ変血病ふ変り終に血の文体
程つゝもなきことの何を事と為し
るの為に牧こいさ毎〳〵人〳〵に力試験
彼が勇気を感伏せざる者無一なれ
ども病中なれば村を不中と及ず道
友とも能〳〵熟さむ遂に長病と成るふ

陸に道の大ひなる味ひ人〳〵に通ずる
ものなりけるハ父の何なる志も及り大病と
成て却て父母の心に程ふ苦つめむ
又將想ふ別るとも云兄弟父の心中少
安なるべきなれハ其方へ弟ふ中無の少も
安しハ心の広さ人に中ふ及ハ先生の思召を
体陸に下て志を助けること弟迷て云ふ
まるも云一として過ることなる
明治二巳年三月廿八日 弟云ス 年三十八歳

法隆寺村管谷七良右衛門惠就（ヨシナリ）ハ天保五午年ノ
学ス新ノ代ニ至リ正直一途ニ心ヲ尽シテ人ニ場ト
ン林ヲ欲スルヨリ寄シ学ヲ初テ与ヘ其ノ力ニ慶
ルヨリ云ヘ世ヘ人ヘ口伝切ニ至リ一生ニ
ケ年来ノ方同村ニ此人ヘ諸切ニ生人ニ何
様ニ御ハテも同人居ヲサルヨリ寄シハ人ヘ
此ノ方ハ又人ノ命ヲ一ヶ月ハ速ニ
ヲ勧メ改ン様取ニ小ハ善悪ニ出組ヲ始ヘ

特ヘ人ニ代ニ至ヘ冊精ス是ニ小ヨリテ道友村ヘ
此新村ニ移ル仏明治三年年此月ニ中風病
おなし療養ニ至ヲ亡ヲ云ヘ不和叶ニ去ス
年六十七歳ニ

長谷村壱番体三郎亮恕ハ天明五乙巳年ヘ生ヲ
父ノ代十八歳ヘ言焼ヲ付伝ヲ多ヘ家ハ
ヘ百姓業操ヘ小人并ニ勝ヲ文政七申
年ヲ名ヲ役ハ当ヲ引ヲ用ヲ寄ヘ内ニ出ス

たん品通りにて勤免村善徳おくれ自分にて拾ひなたおく法道具と拵へ先達と成て丹精す人見ホ咎めなるもの云へ村方に出た唱自分に祝のわ〳〵思ハさる出云〳〵人成事ハ夫婦揃て我子のわ〳〵うれハ来り〳〵者も生家らも能思ひ自我業も上手ホ成り此家成勤め〳〵者ハ諸くに恐至されるもの成て一年限り勤め〳〵者ハ諸くに恐至されるもの成て一年限り勤め〳〵者ハ一夜の泊りも無ホ成て不泊〳〵て当家に泊りホ来る又法職人多ろ〳〵なり其一統勤め〳〵出ホ成ても業の上手ホ成ハ下ハ成ハ子方抱るもの云〳〵子者後見ハ子子ゲ勤む村方後ホホハ子おそ〳〵助け〳〵む又役中下右之なるもの云〳〵子おそ〳〵を諸ら うれ子ホ村方に一統も別なるもの云〳〵後く納ト出〳〵て祈〳〵家なるもの云〳〵近村ホ右なても不実慈源林のかげホとなり其少たる

老安〜天保六未年より幹良左衛門大原先生
に入学すること〜後別ふよつて〜村方に老退く
入学一統す近村〜人も尚求試として集り
学問するものとなれば来る人も〜も尚求乃
納り方ふ感伏〜て此求し模倣なるなて寒り
来り学ひ業んと欲し求求又る年より
一件業見学ふよつて〜種〜の人配ふしとして
唯〜道を学ふ勝〜なく外至て不安故二
卯十二月下旬より病気と称し治療をすると
いへとも老るに〜て遂に正月十一日死去す
年七十二才之

上総國芝山村立木田治郎右衛門は正直一偏ふ〜
て常に人を生くんなるけるの志深き老之
百姓冊籍の写を求め来漢生るるの試
好き又一段漢学ふ深るるの沢高るるの至〜不分
明るるるものハ七倍ふ雖も加茂清正公の面長き
とふ由の写を先だとふ老るるの試とし〜

くて熱中上毒成りさて実言試尋ねる
ヒ一文久三亥七月廿九日八ヶ日に入学す僅く
長野村舎合に居くかよりるもの多ありれば近
き所に大勢道切出るるもの多り忠迷も代
道なくて人成助け出さふ道てきくと思ひ
ゐるも長野村上屋だより七里之女を抱引取り
十日目ふ及べハ力舎合ヲ取り三日夜も仕業お
来る程ふくたるに治方無思ひるハ今一
同学び無成ふ言とたりるもの上ず引く急る

るに成ん配して遠中に体を切潔なる抱ん配
し形かく成る村新ん集後座院要信方の為あ
ふ急ぎなれハ或時日人の時に長野村近く
成ん新ケ小日ヶ中に本家ヶ三に新物
見一道成当りなん得地面と お後引面ヶ中
取新ヶ不記ヶ為薬ふ止ヶと おヶ中とかヶ
治方無日ヶ切新を私に信ず い出ヶ山横岳に
取るヶ書なるの或ヶ為ヶ言ヶ一ヶ
交ヶ横ふてふ恐入ヶハ内ふ何ヶ お新ヶ付き

新左衛門曰夫婦の子二人を助け育て置候
ものハ孝行者と申候私儀何之慶きと
慶長癸卯二月十日彦左衛門ヶ中ゟ此度之
治郎左衛門様道成寺ゟ参り申候此道の為め
命成不情者ゟ村小日向地面信濃いたゞき
定め我七歳ゟ成ゟ子孫ゟ孫
も通ゟ中絶又永年女ゟ合
ゟ助り一年ゟ彦根入り自中事ハ
お供仕候卯二月廿六日小日向儀ゟ
信濃ゟ
治左衛門ゟ助作左衛門新之助
彦右衛門ゟ
彦兵衛ゟ
長谷村良左衛門母方ハ
長女ゟ天明八戌申年生
す十三歳の時父ゟ祖父一ヶ月
祖母と母ゟ

手はその外上げいとなむ事かゝわり糸たた
人元ゝ勝り百姓業も日稼ぎして外げいなり祖母
と母とたゝく丹精怠りなく暮す方ふよつて不幸よ
り親を亡くしたるといへども生長よろしきも彼
かゝと別居して丹精する甲斐の効長男村伊藤方へ
嫁す然る不幸親ゝ患ひかゝんごとくして勤めけ
るゝ星霜泊りホの家ハ約束日限前ゝ勤めざるる
唯の一日も安くも別伊藤焼失の砌仕借ホも
多く仕業もふを回り勝ホて仕事ホも近村より

多く来るを以て七年より尚家の仕事ゝ勤めし
ゝ小ゝつて村方一統近村より多く勤めしゝ人の去る
不文化六己六月十又日男子出生呼名長吉郎後
長蔵と太右の家ゝ人ゝ能源ふて働き実の兄
弟れ中ゝ又子ふちゝ勤めしまもなくも祝ひ
て業ふ怠りなつたる中ゝ十七八ヶ年ゝ間仕借家
も為ゝて外上りも主屋り出来長蔵ゝ廿六ヶ年
大原先生ゝ入学すれ共ふよつて遠く道遠多
く勤め自然尚家ゝ先生ゝ師事致ゝ

吏員ニ命ジ此ヲ見る時ハ右ヲいさみまてんで
先を改めまぶ〳〵此ヲトる、程いさ海〳〵
海るハくゝ海る者云〳〵良寛ニ毒親を能仕
けるハ父母ハ程〳〵何るも良寛ニ心ふ任セバ
といふる云〳〵偽く道友たるも子親子の情愛を
為ん業ッて子孝とゆるを此母道友と我子のわく
思ふよつ〳〵道友も我母のわ〳〵此家ニ来り〳〵
者ハ何んと云〳〵心ハよつて又来てハ長居とゆ
り〳〵当家の飯ヲトまんゆるめ〳〵ふても生活

之ハと自然群集まる之ハ号ふよつ〳〵
先生住宅と定めトも自然ゆる武又
良寛ニ称谷の山ヶ此神霊ヲ祭る場所ふいさ
〳〵なとかゆるもハ母ハ然トハ見かゝハ誰ふも加せ
出我主人ふて世ヲ〳〵ふ七孫ハ子ト出を教年く
万主人ふて前る之ハ此家用掃ッてのんを〳〵ハ
陶然世すとふる云〳〵又学びのゆふ一件ハ
来六ヶ年〳〵ヲ良寛先生と共ニ此所なれハ村
方ハ無ヲ悪風一ト寸なりとい〳〵ども此母更ニ智

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

るゝ云〻唯道を全〻生るの外無之云〻
安政元甲寅十月廿二日家兄自然宜敬小和遠と云
〻一同為村僧〻道友一統大悦す文久二戌九月十二
日娘忍つ死去小よつてあ〻みるけ〻といくと
もせんかく云〻孫娘乃娘乃る所やつと出て〻未
成樂と居てるゝよ〻家庭之丁卯年八月戊小和
尚り乃れハ二月廿九日常日と共賀を祝ん〻とて
親類知縁の者と共家乃れハ良慶の餞小意用ハ
来為府と行ハ〻ハ時母ハ母ハ二人ハて賀を祥〻てる
ゝ事〻情愛云語小遠かゝ〻唯ゝ母ハ小忍
小見〻意年戊母偏小道成去〻ハ御〻先生戊
七地と出為り乃れ初〻推と要〻新以出業小見
〻この〻唯元人母と伝ゝるとれて考ゝる〻
明治三庚午年五月　　言木良義

諸法寺村管谷文蔵母忍つハ寛政十戊年年と生
ゝ七十三戊小て死去ス三戊と府母死去小よつ〻
徒母ハ安信小て音ち十三戊と成よる母女の業ハ

ふかく思ひ入れたる人なりと云へり
ことに又小姓なるゆへ色角女の道を
かねてより十四歳にして夫婦となりたる
御所様丹後守殿一男男子五人あり
次男茂治郎幸左衛門三男源蔵四男孝
八郎五男孝右衛門之儀なるに天保六未年より夫
又左衛門大原先生に入門す依て当家に先生教授
仕居候程に毎日通ふ集ゆるなり天保十
二丑年御小夫と又左衛門四十六歳にして死去仕る

ハ子ゆへ後家となるかゆへ悴時三郎と又左衛門
兄弟を教授と心ざしすれども
兄弟共ハ有のまゝ悪情にして母に心配致し
居候人も多く色々と母の申りかねき事
不二男源蔵十九歳にして病死す此上何様の
難儀来るや我教授申りつゝすべしと
丹後守殿又左衛門能母の志を申り色角母の吾辺
さるゆへ申る事一云一又学びけるの自幸
い来りしに又左衛門幸左衛門の女人に白い夫と死病

こゝに称つふ有かされなどゝも性学の事年
迷て云セイ道のゐるあふ此家伝の程国窮まるゝ
又子やり生云ふ有るゝ性学ハ止るゝ事ハ不お
多有るもいよ〳〵家を有りて子為丹精と云れ
ハ母の一云女人の人申に志丹源念力試云
多〳〵の村〳〵新村と嫁〳〵も母り一人ふよる
有〳〵然るに將又長崎〳〵て死去す依く
稼〳〵永仕合まるとゝくゝ弟一人面ん生るゝ事
云〳〵嫁ゆきふ人伝伝を孫時こ弟をあり云ん

こゝ孫人伝を子こ又日次良左衛門母を婦と人傳
ハ人も嫁の有〳〵思ひ直ひふ七ゝ病楽を除〳〵
居人〳〵の志る有明治三庚午こ月廿又日死去こ
有一統有〳〵ま出者云〳〵

長谷村良左衛門妻高りハ大角村市兵〳〵娘ふ〳〵
て文政十二申年十六日良左衛門に嫁入こ七ヶ年
ふ〳〵て男子出生呼名有義後良祐こ八ヶ年
ふ〳〵て女子出生呼名ハ有義良左衛門

大原先生に入門して多くの道友共も世話
をするようと仰られ道友の子供等も多く
世話出来ましたが我子有ふ有ましてハ
なりませぬ様にと世話出来る時有ような
と仰みまして子供多く集りなるふ悔有義
十一戈良集のんふふ叫動尚と仰て上様
ふ居られハ此席に不許来を女ふかるし
くも思ひなるや勝手ふて源太郎ヶ様良集つ
兄弟七源ヶ何歳の源なり道友の子達集り

て恨し不憂るとハ其人ふ対遠の子ふ赤義
此切に不許来様思ひかしてその子ふ仰られ
意尋よき返るもあられハ良集つ特ふ方が
つて我子ふも人の子ふかとしてるられ此報
ハ出るの方つ来我書をして意度つ段方
叡安中ふられハ意川ハ夫より外の女共の不に
行事ふ出さ海しあつ出るられと自分
の宮ん子と人り宮んだ子とハ有なりふハ
なりと出ん思ひると仰みりし様良集つ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

何れより少分ずつ取るつもりよんで手方我子と人の子とハ同じ心なれなんとかゝるリ出物と人の子と屋だてゞ付てハ此道ハ立ぬ志改るとて取元に取るかゝ改めてさんと中少れハ切ハ若合出道友者とろきとりかゝり改めさせ変いろ〳〵と出居れを遠改りハ取すつゝろ同てもあかまとす五日除切ハつゝ出とりくゞも云法方次第ハよつゝ安穏集に出とかゝ

りられハ遠取の元に取て貞助ハ為送き〳〵手別ハ天保十二巳三月のつもなり

ろのも懐姫〳〵ハ古〳〵次第ハよつて取元ハて安穏手作年日来出るも何し切法も安〳〵さ取新集ろつつも志改るとハつかまと云よて取ハ出ぬ此方性子のつもハ去すいつと立た遠改るつきいられ云〳〵此作いつとも有かまてハ其国離縁てもしてよ〳〵たなとハ和に行なるとハ

も申まるゞ若ひ者のをいつといふ所にて云ノ
所をとハいかふ性質にて所より勝手なるゞ
様といふ事成良藩ゟ少てそふいふるなる
者ひるだ人情としてさんもよりて申ふ子
供の二人りも申てかゝ離縁して者すとハ
いかふも云イ難ふるゞ者成ケるとやたのだ先
きゝ好きなゝ者ひの事ことて弓遠仲人ゝ者
ゟ出候へ離縁出お願へ者ーけりのとゝ多人す
長持ハ村の者ひ所の人送ル之様ハ安歌ハ

日次ゟつの方ゟ届ゟ者かげとなり云なる
となり良藩の人ふ叶ふよふふとりなせ
ー程の志成離縁と成ってハ御ー歌き良
藩ゟも稀ー吳ゝ出れとも不少入先生も元
ゟり吳ゝ吳ゝ加ゆるも程のとふぜん出ても
不行中入道友ゝハ吏ゝ中合せ先生ゟも中入ハ
んさゝ出ゝとも不初届次第之ゝる日道友ゝ
人通ふじて集り大風雨の夜ゟ二云ゝと限
居の者ゟ所のゝり迎良藩ゟ云ん中入ゝ人里

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

よろこぶやうにかうしてゐる間に元より自分の為に所詮道友達にあはれて道を失ハんものと思れて書にのいまし先なるハ去れてゐるものなりかゝる自然自らこゝの人れ不二城廓を思ひつて引元々忍川ハ懐姫のゆるるハ日々に月も重なり人も尤なる日さなかりしと我々ハ去んろう一ト通りなるべき程なる女子なる呼名うた夫の世一日も忘れ兄の中ハ中宮ゆるゆるハ夫婦

島蔵ハ人をかゝ中来りれハ好きとの思ハ迷つ思ひきとのさうすの所より宮ゆる為金として指なる者ハ之報元ふても以の和ふて来て思去れて去れて中のルと付夫元ゆるとゆる之夫より月日も立れハ兄の中ハ中忍川ハ不望さまるの為ゆる友線付ゆよんう又見かゝ仕立ものでもして来の上へでくゝたれハ別宗とゆしてとんなのハも一生らくにくゝさすべくどちらかなるやとたひれハ代に線付家ハ毒仕立度

殺害も致ます唯此俊ふ立てとらんゆめしと
云ふれハ見んもさきいん後がんど手前がん後見之
とても俊ふ立ちり召付長兵衛源がた尋ねつハ日頃
忠つる中城様く河んど事る中城かまひ付さ返城
通り御池の門先ふ立と待り忠つのもようふ城伺
ふれハ忠川兄付かけおして無礼の河ん言城步
披云おもしが源ハむ様ふセイかくり言ふきいと乞
をも云ひきまして源たるつさ悉城しくみえてた
ふ源のむせひ河れ門先なのまハまつし時そ以待つべ

しと云ひ梅しくめて足ひまでふり梅又兄嫁梅つ
も懐妊して既ふお産も忠つと河れるし男
子お生ゆ名ハ千吉二人ともふちゝ母ふて迷惑ん
すれ而くちくもんふ行るるが見る日抔さ
忠つハ定りぬをせふこう梅んハ千吉ハ梅とさらつふ
いだきそへがちてふれハ一生のひふ我子の屋だてさ
る中他の人ゝ兄て悪しくかんど居るよし忠川
ハ婦のんふ難ひ何る中も婦ふお様セざるる中しを
く婦も忠つが身れうへ城出ふし斤時もんたか

る、ゆゑ一切も勧めれるゆハ去れてと
良藥ゝ書程ゆるとゝいられて死ふ後一人ゝ
極めて居るよりゝ又道のゆとて稽古ゝ丹精
ゝ古ゝ一度ハ国を辨く病るゝ縄ゝなん度病の
丹精一ト方ゆゝ出るゝ出せ出せもつきるる
やゝ病ふ病ゝ言ゝ病ゝ出ゝも追ゝやつゝ出て下命
もゝやゝゝと告ゝゝいるゝよゝ時ふ天保十三壬
寅年又月先生門人ゝ初ひゝゝゝ教のきゝゆるゆ
ゝ病ゝ一出歩きゝ出ゝ出ゝ月塩たちゝて食

ゝるものとてハ米麦粟の三方飯の外何一ツ
食せずゝゝゝ門人ゝゝ稽古の教諭日夜怠
丹精ゝ上命ゝるゝ所食ゝ出ゝ体もつ
かゝゝやうゝゝゆゝゝふよつて門人ゝふ渋
改んゝ病ゝ飯ゝ所食ゝも出改めゝ出ゝるゝハ
先生ゝ度ゝふゝ出ゝ出ゝ稽古ふんゝゝ
御ゝふゝて一統改んゝ病ゝ出ゝ上ゝ出ゝ身ふ取
てゝゝゝ病ゝ出ゝ出ゝ方ゝんふて叶ふゝ出ゝ
ゝ出ゝ出ゝゝゝんゝふめんゝ難線の忘川

海線汽船に入る日人海も稍々の動めも少時にして一時に動くべきの動方程尚定まる家程と大病體もつかまつりかねと思ひ死に先立ち元来て死なせなきと思ふに付き程の女友代上京ふ叶はざるとの事ハ市ヶ谷合つての動作何分船に入るとの時矢張り命令なれハ仕方通り出遠動弁に志と御ありなれハ道友先代上もるふて大悦ひなり為つ方にて先生治方つ時に連ふて大角和地に出発為川海線に海中遊なれハ大病のる友

病もあり がてしるふ案せて連来りて又道友為帰と不日先生出発為に一同にも稍々出中遊為と為つるハ長く丹精と自村の方に先ハ之ちふ仕をる之自分の子と思ひ生活しとの作と為つハんも宜りなれハ病室も日々に全快父母にも能きく又道友集ル毎ふ能く出る人の知る所と悔良祐母に先ハ一時帰るべき丹精をも置くなれハ先ハ下女代立て御立一生らくに下下に於下よとしくハ稍々なるべ

もとも病身にて思ひたま更にらしまる人称なく
丹精をつくしたり断く薄き志をあらはす
十九ヶ年も勤めの内是に病おこり時々長病に臥り
種々医療つくすといへどもおこたらずつゐに
愁傷生してうさぎよし至る日母なくなりの病身
むつかしき難を歩て孫乃へ立寄ありなくなりハあれを
立て死ぬる事かと云へるに千辺に居合せる人々
唯感涙をながしける者も云し涙とどめんとすれどとゞめ
らず愁をなくなりハ更ふ憂る事をも常に難

之よふやし母に千筋を引去りし何とぞ我が
力を尽してハ母に存するげきをかけるを
へ事をおりて居り母も又も迷ひもり母も一つに思ひハ知
ましける之良縁中にハ迷ても叶ふまじき事なりハ死而
ハかく思よふ頼む之又云残せる事何れハ云残し
誰にもよと申せハ何も云残せる事ハなけれ共七十
余にあまる母を残し先立つ不孝何とぞ仏に頼り
之と云ひ終れハ嫁乃嫁らしが涙をつれて勤め
まての不日ハかけますめあなんど事なと

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

云ひはゞ一人の業をなすべきだつ不ハ
ふ物る様子と夫より親類村方ゝ女共ハ何かな
ものゝ様なと思ひ何の様も云一有ものがかゝ
ゆづる様と云ふ若合す人ゝ房間せざる
者云一も有や云義ふもとかゝ程ゆてそなた
方ハ親ゝ孝行夫ゝ貞せつ様ゝ一道の義
と物ゝ思ふよりのるゝ人ゝと思ふ者も云一
いきゝ物ひ出ゝつゝるる人ゝ思ひきるゝ知てハ
居るゝのゝも渡ふむせび出ゝ一ハとゞまるべ

嘉永寅つ十月様ゝ一同るげゝ申りゞ出ふ何
らびゝ十月也と親のくろふ物ゝ一ゝ物も
改め母の人様なゝさあ呉るゞせあての孝りゞ分
るべゝと出ゝて一同京出ゝかゝと改るなゝ
嘉祐ハ学を行ゝ也ゝ母の志様徒んとして良め
一人申様出ゝ一母れ多人ゝ小きゝとせゝ文久二様
年九月十一日年四十九歳ゝ天命るる外生涯
孝貞様ゝ一道ゝ多ゝと物ゝ道友共を我子
の物ゝ一人ゝ法則をとて教年ゝ出人物ゝさて出

老母一軍ふの屋がゝみ

元治元子六月　　宮本良義親健記

飯盛村指右尚疑義母屋ハ福本村金松佐右衛門の姉と夫ト農業ふ不足無之ハ共ニ困窮之者なれとも為て家のかゝめき二軍一屋ん実家の源き老ふして七合百ふ子孫の指南ハる天保五年寺子屋大原先生ニ入門ス七夫婦之ん指宣敬方ハく尚家ハ右ハ七ヶ月ハ佐右衛門の長男ハ夫婦ハ

ツてのかんぶゝハ道門二之と打〳〵ハ咲〳〵も五〳〵
ハ夫婦一子ゑるれハ先生ハ右お縫の為ハちさき
時ハ子ハ子として育てとくさ情も源くて宜
敷ハ見雅ものよゝ〳〵と家〳〵の作云と付て思ハ
ふ陸ひ多ゑ子の内孫義の三男利助七戈先生ハ
作兵衛を以〳〵ものん夫先生ハ改吉と改名ハ
る以天保九ハ七月疑義儀ふ為福右衛門死去ス
依〳〵先生も不便ふハ思ハ上ハ後家と御〳〵ハ
ハ元迄るも家ハ家ハ元迄りふ行ハ

為て夫ト申合せ仮家も買ひ調ひ候かねり
ゑれハ為事ハ此方夫ト取去こと致ス本家さんが来
こよふだと云ふ方長兵衛の本家さんがうちと云
ふとゑれハそれ切りて返るも云ふいき引元後
した御ふ去ト せのよふなことだてざぎりまた
と深ゐがとにかくさりゐる方毎ゝ不仕合なるもこ
ちかゝゝくんてかゝゝ出るも此上ハ夫ト見と上の志
成ざり通すゞ女り貞ん悔改をもり三父ゞ
志成為徳と夫トの志も程光りマ中阿のゝゞせ

此ゞんなることなんと云んぱゝ家よりかと
中せバどんなるでも有まんさ後の云ふてくを
るるハ為成ざりまをとの返るとは新ふハさ
ゝゝとも毛程とんハ改吉ハ有ゝゞ夫ゝて祝
とて取り時る実事四月改吉十七長ゝ方ゝ
引元り家ゝ義と先ゝ中語をるゝ十二戌ノ八月
長泥村本多方ゝも父疑義と程とも見りゝる
方見ハきスナ二戌の十二月十日市場村西宮郎ハき
ゝ十ゐ戌二四月後藤村又方ゝ幸ゝ十二月十又日

八ヶ月ニて元服ス別父の名跡継ぎと改名すれ母
長くの月日を打暮しふて農業丹精男の業ハ
ハ女の業なれ一日に二日つゝ仕事ハ
日夜丹精成ス一夫ト数年中の儲成ス十
数年ニて利分と元金とも悉く丹精を以て
為す又改吉の技ハなんと引ても年々高改
糸出る之ニ毎日打暮して継ぎ場所の月ハ
ヶ年之ニ十人程雇ハ去ル海ノ魚角をかゝく
御切ふて長谷村金合に至る道一日も不糸出る
ハ
云ふ一四年勤めり打ち嫁ハ横井村後藤勝蔵
出ん毎日ふる小見も能母の志ふ陸ふ
なるなら必ず近道村々打ち進て道友多
く必ず岩の下けんさ坂之ことて道友日々ふ集
り打れハ居宅も毎せ陸ニ付かゝるに仕事
補強ニケ村ふ歩梅り新武ふ行ふ席ふて母
ハ病人の所ふ出ふ父様さんの市云し通りみぢん
も遠ハハ出ふて毎せ出今てハ立ハ極楽せ
かんでざぎりますと雑有源ふてかゝり打ち梅

人々の志をもり夫ト共さ援を能もりとげ
志強き婦り貞女とも云ツ
府下村源五郎母くらハ村役命蒙ル事ハ
娘之世文ハ根源屋利右衛門元仙方へ
天保二卯年九月九日嫁ス翌辰の年七月男子を生
辰ル助と名付千別ル元仙病家業多忙
くハ成ル事ハ上ハ潔く家業ハ
十六日死去ス年廿七歳ル其母ハ二歳辰ル助

と三人と成リ暮ル居ル内実父ハ病勢
少ク老衰の母ハ若さ女ハ力ル乏ク
音も届ル事ハ且ハ外上ハ不安ハ辰ル助
人足日ハ家内ハ外ハ仕補理ハ引受
ル居ル内ハ病ハ入夫ハ病状
中ハ出ル事ハ辰ル助ハ夫ト
実父ハ病ハ辰ル助ハ
ル居ル内ハ夫ト死去ル別ル母ハ
ル居ル内ハ夫ト死去ル別ル母ハ
不幸ハ遂ル程和ル療ハ

一とも日ふ増〳〵種物よりうみかゝ悪〳〵雑穀
付日〳〵湯かゝて河ゝん生出るゆ九ヶ年〳〵悪
るふ天保十五卯十月十二日出生ゆ和井死去す
年七十三才〳〵くらゝ年三才いよ〳〵一人ゝ成極免
かんゆゝもいとゝすゝ厚し助成ゆりゝ三お優せん
と種〳〵用稽成さゝ〳〵生長を待ちり古稀し
貞心ふよりて徳〳〵感せさる者ゝ〳〵ゝ日御地頭
新ゝおゆゝ大ハ貞女といく徳ふ多年し月始孝
義を尽〳〵ゝ地頭等特〳〵ゆゝ沈思ゝ為御褒美

者自又奥又沈下亜之井ゆ厚し助十ヶ年と勤
深五郎と改名す退〳〵ゝ三房の皆打を以〳〵海
命長屋〳〵屋敷ふ補理済完〳〵出来ゝ海
地頭新ふ初めて清右ゝ沈下亜井之深五郎十
八才業ふハゝ三房深ゝ成婚姻〳〵御〳〵出世
いゝ〳〵ゝ不苦永五ゝ六月十日夜焼失と初〳〵
此時くゝ年一才長ゝ稽〳〵の雑穀一方なゝ〳〵と
いくゝも宮ゝ〳〵ゝ一心屋ゝ生るゆ云〳〵勤めゝ
〳〵ゝ〳〵ゝ取郡奉行代官ゝ取年御切を尽さ

れあ政五年八月八日源五郎廿七歳にして八丈に
入門す然る所潮くさの進むと源の父が姿もよ
よハ母の時〳〵少年なれと能く親しくハ母の長
くの人〳〵に〳〵よつて流人の何と見るも天地の
恵みは難なる時の恵〳〵的当たるるふ及び
多くめれ為る父も多勢の師も母の一言も一家
小国和たるるの時〳〵かく偽〳〵小日向の方に徒人の世
話方おも行屆るとなり〳〵ハ徒人の為る所
らん

高木良義

藤原村治郎兵衛祖母さは村は住伊右つの者に
小てたつと云ふ十歳ホ〳〵て当家に嫁スに後程
云〳〵姑病者と為り退〳〵長病ホて なやみ居る
るを三ヶ年も病苦かれはの者の去人七月一下るり
るを此かん〳〵の為め我家〳〵ハ本宅と
思ひ之とせ人式にすといくとも実生不お仕し
て死去す又夫トの姉ふたなとりふ号は村作壽
右嫁スに七なとたつまきる人〳〵感ち思者

云一親戚なる福富と申かねて有之たるなの云ふ
あるよび世話一トすると称ハ婦ふいりあるかれ藤たん
といふたつ面称ふ深志のびなるべく特ふ力高さ
せ海ドと千葉と云ひ千葉へ行き郎ちゃ明る
知り様ふ用るるとして海一ハのそふて太ない
き引ちゃ千里を少て太つかけ初るげ
くとくとも申かくこ一千里程ふる人感せ
出ハ云一親戚申を敬ゆせしと有父出ちかり
高一ふれハ太つ父ふ向ひ出ちかりハ出ちるるべく

ちゃで出ちる一親ますけ申を敬ハ全
く申るでハぎりませ出先祖ゆけ世話お
海一て世上を施一ゆ出る不かと思ハまをかと
ちゃであ面る一家下よと云ふれハ父も千美心ふ
感一出ちかりとゆ海りあり方号の人ちる一友
新吏トの志斤ゆも出ちハのよるる云一示農業
丹精ゆくるるゆ父ハ院宅ふ居る友ちなの食
るるハ本宅ちゃ太ちゆ進るる唯の一家あり
も父ふ婦る海と出ふ自ら食一りあるる云

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

一衣類おしまいまでハ不及云ふ何一ツ行届かざる
事無し又六年以前より父ハ目不自由ふ成り
それハたつの世話ハ孫も不自由なれハ
いかふ自ふの娘うれハとて かゝと世話を受る
とハいふ事なんなのひまだと 打ゝ中ゝ難る処
半年程ハて死去すと三ヶ年前より父ハ年
寄れる故やうゝ動なれハ出ずに
いたをいとゝ赤姫入りの衣類と小皆引さ
き父の為にとして助ケなるよゝ古ハ父をい

ろゝ世ひなるゆ手紙ふたゝ一雑一又亭主
の為ゝ人ゝ病弁と法華ゝて云ゝ位
者ふゝゝる様父世ふい後さねハ父の智
りと思ひ大切ふ世る方も婦を名ゝふ
思ひ情愛ふて源一母弟さ時より赤弁
様いとゝ云ゝ人ゝ心源切を尽ゝ親
夫トのふふ叶ゝ云ゝ孫も悪
云ゝ常に心かけ宣ゝ名ゝ我子
名ゝも男名ゝる者の為ゝ世ゝ

ふ事なるべし云々家の法功成得ハ十が
一も出来かねつ唯かんつまんで泡せる事
此祖母に成と付多分師匠子供ふ教るを
少に寛宥教ふ事なる父母ふ孝成事を
よと云つる成少て孝の一ツ成為ふおさめ
又子供ハよく出来ぬがくれとも教ふ業
成始るを以ふ〳〵との教是号によつて孝
の一ツ成人の俤へと定め〳〵又寿延元
申三月七日孫英三歳ふ入学す是ふよ

つて道友を集り稽古学ひの中ふ向よ
り問ふといとゝざるとの二ツ成是〳〵是を
勧めるよ〳〵又年利益第一番是役成
勧め給ふ世ふ為り出府して稽古教成
事なるといへとも祖母ふ初め〳〵更ふんにか
けるなり云〳〵何程寒き時ふ成ら人
得いさみ進んて勧ること又英三佛種子俤
始へせんと大工成形を拵へんとせ仏祖母曰ク
父ふ御使して拵るかと云ふ成ふる仏英三思よ

ゆゑ祝父ハ江戸ゆゑ様々敷成る方仏
様位ハお伐せをゆゑ撥てもよかろうと思ひし
が祖母ふ兵ゆゑて尚為せり性学ばれ学びるべく
祖母ゆゑ叶ふ為と為んそうして迅速大工
をも引父ゆゑお伐せしとふ祖母の心中ハ何程
敷成をれハとて吏ハるのん無次第之事
家族をしてお伐せるべくの道女の道為
るゆゑ唯々自ふハつとめかりとめゆゑ人のん
ふさるるゆゑ一能向ふ引かりを出るとな

ん又祝々生家伊右ゑの事ハよろしするゆゑ
るゆゑ時ゑ父母涙々見をん祝す吏成少
て流るゝ涙ハ流すべくよんせさ成をれハ必き
出る為ゆゑ為と云き色々より又用窮ふ及
ひ為ゆゑ時るんと英之何の炭焼小家れよ
なハ為をんるよふふ為ッ為ゆゑ程々為の
かろふとしよていきまきゑ又或時孫娘
いとゑ方ゑ為る居の夜押迫きゑゆり金成せんさ
くゑ付いろ〳〵と見付ゑ〳〵なさるべせゑ見何

あるすぎでハ此人物ハ平生ふぎと云
有ればよろしきぎると云ればそれ
ハあやまりそれもまたまぜかく海ま
せぬるんそれなりハ仕方ぐ安くまで
ぶりまりあるかぐ位ハまりまるかまり
ハ自てすぎれとまりの道ハてすぎ事
ぶてハるかまるかまるやに西げと押
逆ぐりふ之夫ぶり例まるまりに楽四して
ぶりあるまりぶてまるんと人とりよハなんぶ

れハるかまるく静ふせよとりふてまたよん
人でまるっさとりふ右祖母長くのんまるも
家族道を学ぶふまるんでハ稽くの大功ハ
まれなり御地頭新板のまハ稽さて親族一
統道ハ云仕ふさる者安一見自然の獲
者あるまるまるる人少人ん代用ひまかり
尚ハ七十又戈

宮本良蔵規健

紀州の人吉村右衛門兵衛の政隣は文化十一甲戌年に生れ
生家は素封家大須賀村の邨彰川田中氏なり二男
三十九歳にして出家し東叡山に来る天保九戊戌四月七日
大原先生に入門す七月親父八郎兵衛死して母と祖母
に出用に為に同志せず終りとなりて京内の市
城動に加はり門人となり出奔出家の日
少て撥に門人となり一日も忘れる事無く法人に源切城
主に義の為めに為に人の為に弘化三丙午年

三月大先生懐古村邸宅孫右衛門宅ニ出張ス
と云ふ議り安藤ふて道を学ひ助成有之候
も出少御所ニ寄し日記未年三月廿一日大原先生伝記
に出あること付懐古村に出張ス又出張
ひ出少御所お成出ス孫右衛門宅ニ板義を黄
善徳校お成ふ字中屋敷と中に善徳校
お成元治甲六月六日出勤之史ふ仕迎子供引史
安藤右衛門ふ少ス百姓校長に出ふ文久元辛酉
年長沢村長寿院性ふ改年と付安藤右衛門

糸り長ふ出ス八ふ改人様勤ふ安藤右衛門
中出ふ出ふ十二月廿日ふ糸り勤ふ
勤長に日五壬子年七月十七日八ふ改人様ふ礼場者
押迎史より一件始り日六癸丑年七月廿二日に懐古村
引お成ふ出ふ長沢村惣百姓ふ改中に日七甲
寅年二月廿又日ふ村役人に 俗勤長安改元乙卯
年御解を様に高氣報の校史出少御所ふ面会
報ふも出少御所ふ十二月廿日ふ出ふ懐古村
又高ふ中少に廿六日に来ふ大先生八

石ゝ寺新とゐ校ゝとの男石廿六日ゝて一ツ来ゝの男石
ゝ月後ゝ加藤ゝず十二月廿六日公ゝ先生ゝ出側ゝて
義武校ゝ日二月辰二月又日ゝ公ゝ居ゝ校ゝ呉川村
市左ゝ子孫ゝ加ゝ旨ゝ石ゝ毛ゝ糸り勤居ゝ来ゝ元治元甲子
年十二月廿日ゝ九ゝ年勤七年呉川村性ゝ子ゝ三ゝ
八ゝ仝ゝ三ゝ男ゝ丹稿ゝ日十二月廿日ゝ公ゝ勝ゝ手ゝ要信
校ゝ居ゝ十一ゝ年以後七ゝ年十月ゝ西ゝ中風ゝ病ゝ校
一廿又日ゝ東ゝ計醫ゝ方ゝ療治ゝ糸り七月病氣ゝ全ゝ和
如ゝ出ゝ治ゝ方ゝ遂ゝ糸り小日ゝ石毛孝ゝ郎ゝ来り

看病校一十一月六日死去ス

長治村糸河ゝ治ゝ男ゝ憲維ゝ文化二乙丑年ゝ生れゝ磯部村
檜垣治ゝ男ゝ之ゝ政九両ゝ年十二月十又日ゝ尚ゝ家ゝ
子ゝ来ル天保四巳年十一月大原先生ゝ入門ス七月
親父ハ性ゝ子ハきゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ何ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ校ハ大先生ゝ七月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
父ゝ目ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
裏ゝ戸ゝ書ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ教道

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

載父ハ毎夜〳〵指ふお夜中ニて十五ヶ所迄
ト出申ふ日ハ正り麻て居る様ニ動ける様ニ成ル
一天保十亥年九月御地頭大貴様ニ被仰出候
第り年ニ元俊市郎右衛門ニ仰り道友中作村ニ
私 作村九ヶ年目研究ニ御ふ上ニ成ハ村方役人ハ
取調組合ニ蒙ニ出ル一ヶ月ニ十四ヶ所ハ特ニ蒙
安出ル此り月ニ成夫婦ハ振ふて動貴き十二人迄
一ハ遠ク性ふ動ハきニ御ふ公ニ上る様ニも御ふ
り出ル間霧ニ御ふて出ル間ニ出ふ使ハ思ハ日ふ

加ふ変ふて事復仕り方ハ変物ふ日〳〵三度出ル
仕る様ニ御ふ夫ふ楽〳〵ニ成り一日も怠り無く丹
精い為一道友ニも案内ル届き何ふニ御ふ御ふ
も御ふ程ニ成ニ処為ニ御ふ数一何ハ死ニ又ハ家
又丑年ニ成ル多ハ師近路ノ文久子年ニ八十又人
程住ニ殘り廿人程村ふ嘉ふ助ニ中出師
近ふ形ニ取ニ御ふ及ビ右人ニ殘り減一文久
子年師ハ御神霊ニ護被仕自形ハ無御ふ信
ふて動ノ居る子十二ヶ年御ふ出ル天保八年

又月まうり病気ふおもり御くすり長谷村儀
方ロ糸崎所ゟ引取り又月廿五日死去す
年七十一才之

講原村給米利兵衛ハ安政二巳酉年六月十六日
ゟ生まれ初め大助と唱ヘ成ル而て為性理学長谷村
源兵ヘ方ゟ学ぶ仕廻ふ来て吏ゟ日村改名馬
吏ゟ後て文久之癸亥年十二月十五日ゟ公儀え
役一利兵衛と改メす迫て学び進むふ法ハ
自然既利平次ゟ志試後き尊父の所ゟ申と除
く其外道義の書ゟ人ゟ学ぶ年ゟ冊積
を重ね一方学ぶ者又人の列ふ連ゟ明治の初
年の頃ゟ世の騒擾ふ随ひ公ゟも稍くの打走り
た国綱ふ忙ゟ有れ共ふ方り同門ゟ勇ゟ
ちふハ学問撓むもの多ゟ試ゟて切ふ概歎一
積んと奮ひ有ル一自然の興廃をんとも
表書ゟ多ゟ多ゟ公ゟ諸切　父の所ゟ申
試知け明治六癸酉年七月十二日父佐重ゟ病況

不法為一厳市旅行の形跡利先右衛門主人市佐
小右衛門と市人中小毫髪のたがひもなく因
年八月廿二日今日右御驛ゆて市命終まで御帰
住なりし積み大九の人りあるハさるハ徳人の公ふ
感徹りるること市法をしたがて貴ものとも退く恥
付市法遠敷を因新書末ヶ掌に堅薬したる例ふ
第廬を結ひ仁親慎則第代りさる道変
とを小在さ一時の者住なり因十一月年十
月廿九日まで六ヶ年しかり奉なり勅一因ふハ

祖母父ふの出るりを告来しを少てハ悪敵城
かさて称て篠り居なり翌廿又日代り合東京に
来り暫時遠留十二月廿七日八左まで過り翌卯
年に到り七ヶ年間ふて常ふ過るりとハなり
出悲るに先年祝利平次一時五ヶの国家ふ
よりて強切しる家を八右ふて何かる心情
程改正を加く九ハ浪来常の悪癖もなくに到り
消滅一諫自改道の本意之ハの来るやと
祝族村内ハ勿論遠近他村し者とも表況をさる

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

ハなり　利長卿　後代まゝの養なり　二月廿七日
八ゝ[illegible]毛源五郎　村〻國〻の惣代の人〻と
共ニ利長卿を引連れ藤原の郷ニかくり母
祝ニまゐる　[illegible]ハ[illegible]ニ祝ひ藤原ニ
八日逗留　ものを招きいたし　祖母父ハの墓系を
しらべやハの時　利長卿三十一才之祝ニ付
此月三十日　[illegible]の七回忌を吉水ヶ峯ニ営ハらり　逗
ハ[illegible]登り　六月十六日ハ新ハて　[illegible]ハり　依し迄
[illegible]ハ村岩隆寺ニ葬る

性理學實行評論

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

雨來御疎濶打過候得共愈御清穆被
爲在奉恭賀候陳者此程者御出京遠
路遊々善コソ祝思召立奉敬伏候且
根岸修行中ノ最中一段御修練モ被
爲在候由好道之御誠篤是亦奉感服
候扨別册者北總教會近頃之景況ニ
付此八九年來心配罷在候得共何分
鄙見ニ決シ兼候ニ付夫々熟考之上
申出候時機歟認取候モノニ御座候
處甚圭角多ク議論者一應尤ニ候得
共附戮批評之通不中節哉ニ申候モ
ノモ候マヽ別ニ認直シ石毛君エ入

御覽置申候間電覽之上御一評被下
候而御返與可被下候草稿ハ外ニ無
御座候間何卒御覽評ノ上高示奉願
候餘付面悉百拜

十一月十一日　山崎衡

伊佐老臺

梧右

コノ御論ニマスヽ、道義ノ張與ラソコトヲ助ケ玉フ深ク切ナルミ心ヨリアフレ出タルヿトシモオモヒ侍レハイトウレシク至當ノ御說トカヘサヘヨミ侍ルニ已レモ少シクオモヒエタルフシモアレハツヽマスウチイテ侍ルニナン抑學道ノ本意ハ知テ後行フト行ヒテ後知トノ前後ハアレトモ其實ハ一ニシテ異ナルヿナシカレトモ世間普通ノチシヘチナスモノハ唯知タルノミニテツトメ行ントスルモノ甚少シ

中論

道外ニ倫ナシ倫外豈道アランヤ道ハ神明ニ根シ天地ニ貫ク何ゾ倫外ニ道ナシト云ヤ曰人倫ハ天倫ナリ故ニ人道ヲ明カニスレハ天神ヲ敬セザル可カラズ君父ヲ敬スルモノ神明ヲ敬セザル可カラズ身ヨリ溯リテ天神ニ貫ケハナリ是故ニ人倫ヲ離レ或ハ之ヲ薄シテ道ヲ說キ或ハ事物ヲ外ニシ又ハ之ヲ賤シミテ心ヲ談ルモノハ大抵過高偏僻ノ教ニシテ神聖天傳ノ中道ニ非ルナ

故ニ一身一家ノヨク脩リタルモノアルヲミス今吾輩覺ムル所コレニ反セリ唯行ヒヲ專トシ實驗ニ意ヲ委スル故知タルノミニテ行ハサルハ虛飾ナリトイヤシムルヨリ終ニ鄙野ニ失フナリ君ノウレヒ玉フ所偏ニコヽニアリテコノ御論ニ規正シ玉フナルヘシシカレトモ今コノ學ヒ行ヒ得タル人々ノ實驗ヲ古典ニ徵スルニカノ不知不知帝ノ法ニ願フトイフ嘆皇上ノ人ノ如シニ已ハ思ヒ侍ルニコソヨリテ石毛先生ニ問タヽシテフシ〳〵ノ條下ニ鄙見ヲ注意シ侍ルニナンイヒヤマノナメケナルハ田舍人ノナラヒトミユルシ玉ヒヲカシアナカシコ伊佐岑滿マヲス

附テマナスヘテコトヲ强クイハソトシ玉フ文飾ヨリ毀譽トモニ實ニ過タリスコシク用意シタマハンコソヲカハシケレオモフヿイハヌハ腹フクルヽトイニシヘ人モイヘ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

芳村小敬正評
烈心勵行云々
ヨリ錄兩ニ察ス云々ニ至ル賢人君子ノ所勸豈易々ナランヤ此人希世特立ノ士也

世ニ烈心勵行ノ人アリ貨利ヲ長レハツヽマスウチイテキコエ侍ルハ例ノ老婆心ニコソ

ルヽ「鴆毒ノ如ク聲色ヲ遠クル」

同

妖魅ノ如クス私欲ヲ毫髮ニ制シ俗情ヲ銖兩ニ察ス其行ヒ峻ナラザルニ非ズ其志高カラザルニ非ズ然レトモ其節ヲ失フニ至テ父子夫婦朋友倫常ノ間コレヲ待スルノ恩情見ヲ以テ私情トシ道ノ糟粕トシ累絲トシ殆ド道ヲ重ンジテ倫ヲ輕ンズルニ出入シ事物ヲ賤ンシテ心ヲ論スルニ至レ故ニ其道トスル「ノ爲メニスルヤ父母妻子ノ饑寒ヲ顧ミ

至於此其弊老ナラサレハ佛トナル恐レサルヘケンヤ

倫常ノ間相待スルノ恩情ヲ私情ト親玉フハ非也吾輩勉ムル處ハ唯滅溺ノ愛情ヲ制シ人倫ノ常情ヲ行ナハシメントスルニアリシカルヲ概メ節ヲ失フトシ玉フハ僻見ナリ故ニ吾黨ノ内父母妻子ヲ凍餒シ君長國土ノ制令ニ背キシモノアル「ウシ

ルニ遣アラズ君長國土ノ制令ニ觸ルヽヲ畏レズ其意以爲ク小孝ハ顧ル可カラズ寧ロ其親族ノ心ヲ正シカラシメ以テ大孝ヲナスニ若カズ小忠ハ拘リ難シ寧ロ其在上ノ政ヲ朴ナラシメ以テ大忠ヲナスニシカスト道ヲ任ズルノ志大ニシテ身ヲ殺スヲモ憂ヒザルノ剛節高心ヨリ或ヒハ揮霍百金一擲シテ吝マズ竟ニ償フベキ道確カラス大イニ期約

期約ヲ誤リ獄訟ヲ招キタルハ事情止ムヲ不得ニ出ルト雖一時ノ失策ニシテ甘ンジテ其罷責ヲウケンノミ但此負債ハ普通ノ負債ト異ニシテ道ノ爲ニオノツカラ醸成セシモノナルヲ以テ其償ヒヲナサンカタメ衆心自然ニ一致シ種々ノ方法ヲ

ヲ誤リ獄訟ヲ招キ或ハ數年道學ノ槇幹タル身トシテ時ニ其抵當ヲ冒

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

昧シ契書ヲ踈放シ友義ヲ失ヒ朋信ヲ襲リ或ハ身代限リヲ命ゼラルヽト雖苟モ之ヲ奉ズルハ道ニ非ズトシテ檻獄セラルヽニ至敢テ屈スル心ナク悍然トシテ自ラ信ジ以テ一世ノ利心ヲ消磨シ時俗ノ澆風ヲ回サント欲ス特リ此事ノミナラズ其毅然ノ心獷然ノ念以テ倫理世法ノ上ニ超出脱洒シテ世人ヲ濟フアラシト冀フ余其徒ニ交ル年久シ竊カ其前師ノ教風ト心術毫芒ノ差以テ猖狂自恣ニ赴クアランヲ懼レ之

設ケ老若男女數百人丹精奉公ト唱ヘ使役ノ勞ニ當リ其俸ヲ得以テ其償ニ充ツ其中六旬ニ餘ル齡ニシテ自ラ人ノ奴僕トナリ三ケ年ニ至ルモ曾テ退カントスル心ナキモノ有ルニ至ル或ハ丹精繩ト唱ヘ業塲ヲ六ケ所ニ設ケ月々村々ヨリ男女日ヲ分チ會合スルコアリ婦女ノ身ヲ以テ一晝夜ニ二千余尋ノ繩ヲナヒアクルモノアリ如此勉勵刻苦更ニ鼓舞ヲ用ヒスシテ自然其工漸々捷マス以テ負債ニ充ツトスルノ外ナシ是朋友ノ信義ヲ失ハサルノ勤ナラスシテ何ソヤ

道學ノ楨幹タル者トハ何人ヲ指シ云玉フニヤ今道義ヲ張興セント志スモノ抵當ヲ冒昧シ契書ヲ踈放シタルモノ嘗テ有ルコナシ

身代限ノ命ヲ奉セスシテ檻獄セラルヽニ至リシハ猾商謀テ身代限ヲナシ嘗來ノ負債ヲ一洗スルノ弊習ニ不倣一向ニ朋友ノ信義ヲ失ハシ

ヲ規シテ曰ク子等ノ志ハ高シ其行ハ潔シ其節ハ堅シト云ヘシ今ノ世ニ方リテ教道ニ從事シ嗜欲ニ溺レズ精神ヲ奮ヒ節行ヲ勵シ且其師傳ヲ失フヲ畏レ世道ヲ憂フルノ切ナル果毅勇敢ニシテ深遠刻苦ナル余未ダ其今ニ比類アルヲ見ズ力行ノ則ルベク氣義ノ嘉スベク施設實驗ノ妙モアリ傳教的確ノ眞モアリ是ヲ以テ能ク人ヲシテ情欲ノ愚迷ヲ醒シ怠惰ノ習癖ヲ消セシムル實ニ世俗ヲ振勵興起スルニ足ルモノア

ト思フ一徹心ヨリ發セシヲニシテ所謂過チ見テコヽニ仁サシルトモ云フヘキカ

今ノ教導方ト前師ノ教風ト差互アルカ如シトスルハ必竟實地ノ履行ニ不渉實驗ノ玩味ナキ誤認ナルヘシ猖狂自恣ニ赴クハ世間教ナキモノヽ所行ニシテ今日道ヲ學フ者イカテカコヽニ陷ラソヤ君ソコヲ懼玉フハ俗ニイフ思スクシナリ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

ルヲ以テ感賞推輓モ亦コヽニ年アリ余輩ノ藥石砥礪トナリ益友トスルニ堪タルモノ少カラザルノミナラス教化ノ實效ヲ徴シ道德ノ委靡ヲ振フノ唱首トナルモ將ニ予等ノ修ムル處ニ望マントスル者アリ然ルニ予等ノ近況ヲ察シ之ヲ聖法ニ考ヘ之ヲ師凰ニ照スニ既ニ前條ノ弊患ヲ致ス其由テ來ル處一時一旦ノ事ニ非ル者アリ然ルニ予等ノ徒ナホ詞ヲ時世ノ艱難ニ寄セ行ヒヲ師傳ノ規範ニ托シ決然方寸ニ一種

前條弊患トスルヲナシ一々條下ニ辨スル如シ

一種ノ見解ヲナシ云爲施設ノ餘弊トハ何ヲ謂テ云玉フヤ我輩守ル所ハ先師ノ教法ニテ毫モ私意ヲ交ヘシ別解別行アルニアラス道サヘタ

ノ見解ヲナシ云爲施設スルノ餘弊其瑕疵ノ掩フ可カラザルアリ是ヲ以テ甘心賛助スル能ハザルノミナラス痛惜嘆慨其弊害ノ底止スルナキニ至ランヲ憂ヒ默視スルニ忍ビザルニ至レリ夫レ何ゾヤ私心ヲ防制スルノ餘父子ノ恩ヲ顧ルニ遑アラズ以テ世情ニ纏ハレズ戒行ヲ保チ教道ヲ張ラントシテハ朋友交際ノ情義モ屑(モイカヘ)ナラス況ヤ他人ヲヤト世法ニ泥マズ以テ產業ヲ修ムルヲ以テ身家ヲ利スルトナシ農桑ノ本

テハ自分ノコハドウテモコシト極メ勉メ行フノミ其道タルヤ人倫ノ正シキヲ廣ク世ニ推及ホサントスルノミナリ君國ヨリ了知スル所ナルヘシ

父子ノ恩ヲ顧ミルニ遑ナクンハ人倫ノ大道ヲ失フナリ如此シテハイカンソ教道ノ行ハルヽ理アランヤ父子ノ間ニモ只世間ノ感情ニ經ハレサランコヲ教ヘ導ヒクナリトハ知リ玉ハスヤ

朋友其他ノ情義ヲ厚クセント思フカ故ニイカナルナンシフコテモイトハザルノ筈行ヲ勉ムル也如何ソ情義ヲ屑トセサルノ理アランヤ

人產業ナクシテ世ニ立ツヘキノ理ナシ只修ムル所ハ產業ヲ主トセスシテ道義ヲ重スルニアリ一家道義ニ浴シ人々道義ノ心ヨリ產業ニ從事センニハ若キハ素ヨリ其勞ニ服シテ勞トセス老者モ亦其老ニ安セス强弱老少自ラ一致シ桑ソテ其產

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

務ヲ輕賤シ法度事物ヲ慢視シ其極ヤ以テ信義ヲ失フヲ遺レ倫常ヲ輕ンズルヲ思ハズ眼前ヲ離レ遠大ヲ期スルト言テ負債積デ丘山ノ如ク艱塞重ナリテ嵯峨ニ似タリ以テ時トシテ刑憲ニ觸レ與論ニ罹リ俗人ハ道ヲ辨ゼズ常心ハ教ヲ識ラズト庸言往々失ヒテ小幸小患ヲ棄テ庸行時々欠ケテ超凡脫俗ヲ期シ道ハ卑近ヨリ高遠ニ貫クヿヲ審カニセズ然シテ尙其本ニ反求シ其始メヲ正クスルヲ思ハズ事ヲ豫メスルヲ

業ヲ勤ムルニ至ルヘシ夫如此ナレハ幸ニメ富ルモ其分ヲ超テ驕奢ニ至ラズ不幸ニメ貧ナルモ困乱ニ陷ラサルヘシ若道義ヲ重セス產業ヲノミ執着スレハ只利ニノミ趨テ其極言ヘカラサルニ至ル世人ノ形跡ヲミテ知ルヘシ我輩深ク此ニ見アリ依テ念々勤ル所道ヲ脩ル爲ニ產業ヲ勤ルナリ然ルヲ農ニメ商ヲ兼ルヲ嫌フハ言ヲ待ス農一方ニメ其本業ヲ勤ルニモ其產業ヲノミ主トメ道ヲ道具ニ用フルニ至レハ不知不知自分限リノモノニ陷リ其弊必定驕奢ニ流レ其一家ノ破倒ニ至ルヘキヿ其勢親ク歷見スル所ナリ彼妻ヲ娶ルハ先祖ノ遺績ヲツキ親ニ事ヘシムル爲ニムカフルニテ一已娛樂ノ爲ニ非スト懇々教フルト同旨ニシテ是等ノ事ハ前件倫外道ナク道外倫アラサル條ノ如ク吾輩學フ所ノ尤眼目ニテ頗勉强スル處ナレハ聊モ農桑ノ本務ヲ輕賤シ法度

明カニセズ曰ク時ノ艱ミナリ曰ク一時ノ失錯ナリ曰ク自然ノ勢ヒナリ曰ク徒弟ノ過ナリ曰ク敗リテ成ルナリトシテ恬然大道ヲ擠フトナシ世ヲ尤メ人ヲ責ムルノ情大ニ忠恕ノ道ニ反シ而シテ自カラ以爲ク中庸ノ至極ヲ學ブトナス何ゾ其惑ヘルノ太シキヤ唯其方寸ノ中一點存スルノ微ト雖其心ニ發シテ其政ニ害アルト孟軻氏ノ言吾レヲ欺カザルヲ知ル噫老子道德ノ末流ハ申韓ノ刑名ニ流ル子等刑名ヲ賤ム

ヲ慢視スルモノ非ル也凡慮多クハコノ處ニ迷惑執着スル故君モ同シサマニ世間ノ常情ヲ以テ視玉フ故ニコノ言ハ發シ玉フナルヘシ信義ヲ失ヒ倫常ヲ輕ンスルハ憲法ノ大罪也道義ヲ守ル者如何ソコヽニ陷ラシムル理アランヤ負債積テ丘山ノ如ク艱塞重リテ嵯峨ニ似タリトモイカテカ屑トオモハンヤ道ハ艱難ニ振フ又天大任ヲ下サントスレハ其心志ヲ苦シマシムトキケハ方今道學ノ進ムヘキ時ナリト倍勉勵シテ退屈ノ心生セサル也

道ハ卑近ヨリ高遠ニ貫クヿヲ審ニシ其本ニ反求シ其始ヲ正シスルヿヲ思ヒ事ヲ豫メスルヿヲ明ニスルカ故ニ此學ニ勉勵スル也然ルヲ是ニ反セリト視玉フモ非ナリ

世ヲ尤メ人ヲ責ルハ凡情ノ常ナリソノ常情ヲ察シメンカ爲先師種々ノ方法ヲ施設シテ教導ニ刻苦セシ

噫老子云々以下未煙ヲ覺ユ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

ト雖清淳寂滅ノ邊ニ迫リシヲ覺ヲズ自ヲ人倫上ニ慘刻ノ味ヲ生ズ思ハザリキ道德ノ過高慘覈少恩ノ如此ニ入ラントハ毫厘ノ差ヒ千里ノ謬リトハ是等ノ「フゾ云フナル是ヲ以テコレヲ觀レハ夫ノ人ノ子ハ我子ニ同シ其愛情初メヨリ異ナル「ナシト云フ子等ノ說ハ所謂民ハ吾ガ同胞トテ一視同仁ナリト道體ノ大公無我ヲ示セシヲ誤解シテコレヲ行フノ實地ハ所謂吾老ヲ老トシテ人ノ老ニ及ボシ吾幼ヲ幼トシ

遺志ヲ守リ中心ノ誠ヲ推立ルヲトムルコナレハ聊モ忠恕ノ道ニ反スルコナシシカルヲ君何ヲ認テコレニ反シ減ヘリト云玉フヤ吾黨學フ所ノ中庸ハ君ノ解釋ト異也此事下ニ辨セリ

我老ヲ老トシ人ノ老ニ及ホシ吾幼ヲ幼トシ人ノ幼ニ及ホスヲ狹隘トミルトハ是又何ヲ認メテ云玉フニヤ人ノ親ヲモ我親ノ如クニ敬愛シ人ノ子ヲモ我子ノ如ク慈愛セシメントスルカ故ニ人ノ親モ人ノ子モ我親ヤ子ト隔ナク同シヤウニオモヘトイフハ即我老ヲ老トシ人ノ老ニ及ボシ我幼ヲ幼トシ人ノ幼ニ及ボスニアラスシテ何ソヤ畢竟ハ我子ニノミオボレテ他人ノ子ヲオロソカニ思フヲ恐レテ人ノ子ト我子ト

ヲ人ノ幼ニ及ボスヲ狹隘ト見テ父子天性ノ至情ヲ物累トセシ異端ノ流ニ近ク故ニ妻子和睦ノ情ヲ樂ミヲ道ヲ盡ストノ師說ハ時ニコソヨレ今ノ時ハ妻子ハ拋擲ストモ斯道ニハ換ヘ難シト奮勵セザレバ道心ト云ベカラズ一子出家シテ九族天上ル意ニ、ニ在リトノ見解ハ妻子好合シ父母順ナルノ中庸ノ正旨ヲ離レ先師溫雅ノ教意ニ乖キ激厲ノ餘患漸ク大弊ヲナスニ至ラントスルハ灼然火ヲ見ルガ如シカノ浮

其愛情ヲ異ニスルコナカレトチシフル也故ニ父子天性ノ至情イカテカ物累トスル理アランヤ

妻子ヲ拋擲スルト視玉フハ非ナリ妻子ニ戚溺スル迷情ヲ棄捨セシムルナリ此又師說ニタカフコナキヲ

衾ヲ同シクノ臥シ車ヲ共ニメ食フ如キヲ妻子好合ト視ハ關係ノ義ヲ忘ルヽニ似タリ一向ニ親ノ命ニ從背セサルノミヲ父母ニ順ナルトセハ父有爭子不陷不義ノ義ヲ何ト說テ可ナランヤ

中庸ノ正旨トハ恐クハ君我執ノ妄情ニツイテ恣ニ折衷スルモノト思誤リ玉フニ似タリ然ラハ俗ニイフ中ブラリンノ中トイフモノ也笑フヘキノ甚キ也又先師思雅ノ教意ニ乖キ云々大弊ヲナスニ至ラントストハ何事ゾヤ抑先師亮規君臨末ノ行狀ヲ察スルニ世間大變革ノ際ニ方リ從來奉ズル所ノ敎法洗季ノ惡

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

屠蘇嶺ノ教其向上ヲ離レ講相ヲ去
リ業障ヲ寂滅シテ六道ノ流轉ヲ超
脱シ真如ノ佛天ニ生ルヽト云フノ
弊ニ同シ然ルニナホ佛ハ小乘ヲ謹
ミ優婆塞ノ五戒アリ比丘ノ五戒ア
リテ妄語其外戒律アリテ在家又ハ
信男女ヲ適宜ニ正シカラシムル處
アリテ子等ガ一脚ニ蹴破リテ肆行
ヲ輕忽スルノ太シキニ及バズ嗚呼
過高ノ患ヒ何ゾ其決烈慘覈ノ至レ
ル佛ノ弊ニ似テ佛ノ善キニ似ズ人
欲ヲ惡ミテ天倫ノ眞ヲ汎ス儒ノ心

風ノ爲ニ殆盡滅ニ至ラントスルヲ
視精心凡慮ニ超過シ大漸ノ期ニ臨
ムマテモ勉力勵行メ呵責シ王ヒシ
猛威言語ノ及フ所ニアラス故ニ門
下ノモノ鎮仰振起シテ傾頽ヲ維持
スルハ全先師道靈ノ餘風加祐スル
所以ナリ然ルヲ君只先師温和ノ風
ノミヲ認メ嚴然ノ威ヲ思ハサル
也是則甘心贊助ノ道ヲ與サントシ
玉フモ却テ痛惜歎慨ノ道ヲ餌スニ
似タリト云ヘシ

肆行ヲ謹ムハ人道ノ大法也イカン
ソ輕忽ニシテ歌道ノ立ツ理アラン
ヤ

人欲ヲ惡ミテ天倫ノ眞ヲ泯スト云
フイカニ考レヒ得意シ難シ人欲ヲ
惡マスシテ天倫ノ眞ニ適フヘキ道
理ナケレハナリ

我載ノ妄情ヲ制スルヿヲノミ勉學
フナレハコノ道ニ入テハ心ヲ師ト
メ天倫ヲ忘ル、モノ一人モアルヿ

ニ似テ儒ノ誠ニアラス其レ之ヲ何
トカ云ハン余レ子等ノ行フ處ヲ惜
ミ且適輔教編ヲ讀ミ併セテ大ニ感
ズル處アリ因テ妄リニ心ヲ師トシ
天倫ヲ忘レ約禮ヲ先ニシテ博文ノ
學ヲ遺シ克己アリテ復禮ヲ欠キ天
人一貫心行一致ナル大道ヲ失フ者
ニ告ント以テ中論ヲ作ル

心外倫ナク心外道ナシ道卽心ノ道
倫卽心ノ倫ナリ心ノ外別ニ倫道ヲ
工夫スルニ非ラズ然レモ世人儘習

ナク約禮克己ヲヲトムルニ急ニノ
餘力ナケレハ博文復禮ヲイマタ極
ムルニ至ラサル也然ルヲ道シ欠ト
視アヤマリテ吾黨天人一貫ノ大道
ヲ失フト思ヒ玉フハイカニヅヤ抑
コノ學ヒハ先師四拾年來實地ヲ展
壓シテ懇切ニ教誨シオカレタル正
旨ナレハ門下一統心腑ニ貫徹シテ
堅ク守リ猶世ニ廣クオシオヒポサ
ントシテコノ際ニイタリシナレハ、
イヨイヨ父母ヘ孝ノ爲ニハドソナ
難誌デモイトハサルノ一ツヲモツ
テ算タルウヤモ油斷ナク勉メツト
ムル也シカルヲ決烈慘覈ト見トシ
テ超凡脫俗ヲ期シ過高偏僻ニオチ
イラントノ懸念シ給フヨリコノ中論
一篇ヲノヘ說論シ玉フハ深厚トモ
イフヘキ也
數々浮圖氏ノ說ヲ引キ玉フニツキ
已レモイハマホシキヿアレトモ余
リ多端ニ渉レハイマハイハス
只一話アリ已レ若冠ノコロキケル

心ヲ以テ本心ト認ムル者アリ某人モ亦習心ヲ本心ト誤認タルナラン而シ逆編懇辨反覆中ヲ勦ムルニ似タレドモ發シテ節ニ中ルノ和ハ吾曹未ダ保証シ難シ　正秉妄評

コアリ名人本因防秀和ノ言ニ世人常ニ岡目八目ト云フコアリコハ圍碁ノ道ニ深ク立入ラヌ人ノ言ナリ深ク立入圍碁ノ眞意ヲ得タルモノ局ニ當リテ岡目八目クラサノコニテハ碁打トハイハレヌトイヘリトソ此言卑近ナリトイヘドモ大道ノ意ヲサトスニタレリオノレモ岡目八目ノ狹見ニテ徒ラニ八ケ年ノ星霜ヲ經タリシニイマスコシク此道ニ入コヲ得クリ懇ニ君ニ勦ム願シハ岡目八目ノ見解ヲステ眞ノ大道ニ入我言ノイツハラサルヲ知リ玉ヘカシ

此書ハ性理學世ニヒロクナリ行ニシタガヒ自然弊風ノ生ゼン事ヲオソレ山崎氏論ヲ作リテ伊佐氏ヘオクヲレケルヲ同氏今人々ノツトメ行フ實地ヲ有ノマヽニ答ヘラレシ也コハトモニ學ノ道ニ退心生ゼンモノヽ爲メニハヨキ鍼砭ナルベシ余モ近頃コノ學ニツキ大ニ感悟スル處アレハオナジクハ世ノタスケニモナレガシトオモフ心ヨリ百部ヲカギリ活版ニ刷スルハ學ノ友トナヘウツシオクルニ筆ノ勞ヲハブカントスルニナン

明治十年十一月　伊藤集

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010

東京大学経済学部図書館
5505635010

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505635010